

まるもり 議会だより

Miyagi Prefecture
Marumori Town Assembly
News

第271号



2025. MAY
令和7年5月1日

発行 宮城県丸森町議会
編集 議会広報常任委員会



ワクワク ドキドキ 1年生 (丸森小学校)

(表紙のことは…… 28ページ)

3月議会

にぎわいの拠点整備に着手	2 ページ
第六次丸森町総合計画初年度の方針は …	4 ページ
一般質問 10人の議員が町政を問う	11 ページ
議会懇談会開催のお知らせ	23 ページ



丸森町公式キャラクター
ねこがみとうぐいすP

にぎわいの拠点整備に着手

3月議会のあらまし

定例会は、3月4日から18日まで開催しました。

主な議決内容

- ◆令和7年度各種会計予算
- ◆条例の制定 1件
(MIZBEステーションの設置及び管理条例)
- ◆条例の一部改正 8件
(町税条例の一部改正ほか)
- ◆条例の廃止 1件
(国民健康保険出産費貸付基金条例の廃止)
- ◆財産の無償貸付 1件
(旧金山保育所)
- ◆特定の事務を取り扱う郵便局の指定について
- ◆工事請負変更契約の締結 4件

(5道改第7号深堀宮田線道路改良工事ほか)
◆一般会計ほか5特別会計の補正予算

審議の結果、町長提案の議案等を、すべて原案どおり可決しました。

一般質問は10人の議員が行い、自らの考えを交え町長や教育長と活発な議論を行いました。

また、議員の報酬及び費用弁償等に関する条例と議会の個人情報保護条例の一部改正、新年度各種会計予算に関する要望決議を決議し、可決しました。

(詳細は10ページ)

議決結果の一覧はホームページに掲載しています。



令和7年度予算は

一般会計予算

122億6000万円
で6年度と比較して14億3000万円、13・2%の増となりました。

特別会計予算

国民健康保険特別会計等5つの特別会計予算総額40億1710万円

企業会計予算

病院事業会計 16億 6万円
水道事業会計 7億5487万円
下水道事業会計 17億6701万円
※予算額は収益的支出及び資本的支出の合計額(8ページに詳細があります。)

旧耕野小学校改修工事に3億5849万円

閉校となった旧耕野小学校について、改修工事に着手するための予算です。

令和4年度から各地区では空き校舎の活用方法について検討を進めていました。耕野地区では地域課題解決への具体的方策を検討し、

耕野まちづくりセンターの移転を含めた活用計画が具体化したことから、改修工事を実施するものです。

改修工事にかかる財源は、国庫補助金と過疎対策事業債を充てることとしています。



地域振興が期待される旧耕野小学校

八雄館の新築工事に2億4060万円

度重なる地震により被害を受けた八雄館の建て替えのための予算です。

現在は仮店舗で営業しており、新店舗建設で、新たなにぎわいと交流の拠点として斎理屋敷及び中心市街

地の魅力向上に取り組みます。

令和6年度に解体工事を実施しており、7年度に新築工事に着手するもので、8年度に新店舗での営業開始を目指します。



仮設店舗で営業する八雄館

百々石公園看板整備に2000万円

百々石公園内等に案内看板等を設置するための予算です。

再整備を進めている八雄館やMIZBEステーションを発着地点として、百々石公園等の観光名所を巡る町内周遊のウォーキングコース新設に向けて整備を進めていきます。



寄贈された東屋(百々石公園)

和牛振興事業に339万円

丸森町和牛改良組合が実施する和牛振興事業を支援するための予算です。

令和7年度は、宮城県肉用牛改良委員会が宮城県基幹種雄牛に認定された丸森産の孝糸波号の子牛生産を後押しし、肉用牛の産地としての評価向上に努めるものです。



畜産振興に期待 孝糸波号

かわまち交流センターの建に10億2927万円

MIZBEステーションの敷地内にかわまち交流センターを建設するための予算です。

災害時における活動拠点、平時時は災害伝承・防災教育機能、にぎわい拠点としての機能について検討を行っており、令和7年度から工事に着手するものです。8年度には町のゲートウェイとして運用開始を目指す、整備を進めていきます。

観光船入替に1500万円

阿武隈ライン舟下りの観光船4艘のうち、老朽化した1艘を新しい船にするため、(財)丸森町観光物産振興公社に補助するものです。

船は小型になり小回りが利き、河川の水量が少ない時も運行しやすくなります。

第六次丸森町総合計画 初年度の方針は

予算認定に関連した総括質疑の中から取り上げました

総括質疑とは、町の方針や予算全般に関して質問するものです

災害を見据えた訓練は

問 災害を想定し、河川防災ステーションでの訓練や研修の実施は検討しているか。

答 国と町が連携して防災活動にあたる場所であり、国と連携した研修や訓練のほか、消防団や水防団の訓練等も実施していく。

空き校舎利活用は

問 旧耕野小学校は、どのような利活用に向けて改修するのか。

答 干し柿などの農産加工施設、サテライトオフィス、eスポーツの拠点、太陽光発電設備など、地元の要望に沿った施設整備をしていく。



整備が進む河川防災ステーション

木育の推進は

問 令和6年度に子どもたちと大人が一緒に植林した子どもの森林を、7年度は木育にどう活かすのか。

答 丸太切り体験や高性能機械での伐採など林業の見学。また、森林保全活動を通じて、災害を防ぐための森林整備の大切さを学んでもらうように取り組む。

移住支援は

問 新事業の空き家を改修して移住者に賃貸する際の対象者と、賃貸までのスケジュールは。

答 今後要綱を定め対象者などを決定していく。令和7年度に物件を決定、1軒を改修して年度末には賃貸できるように進めていく。



大きく育ってね 子どもの森林での植林 (令和6年11月羽出庭地区)

ふるさと納税の取り組みは

問 個人版と企業版ふるさと納税の目標を達成するため、どのような取り組みを考えているか。

答 個人版では、新しい返礼品になる加工品を開発することが効果的と考え、企業版は、マッチングイベント等に積極的に参加してPRしていく。

丸森病院の医療体制は

問 令和7年度の常勤医師の確保状況はどうなるのか。

答 県から新たに2名の医師が派遣され、常勤医師が4名となる。そのうちの1名は内科と外科を診察できるので、外科の治療を要する入院患者の対応も可能になった。



町長が企業版ふるさと納税マッチングイベントでPR (仙台市会場)

工場団地売却と造成は

問 金山工場団地への企業誘致の取り組みと、売却後の新たな工場団地の造成は。

答 町内事業者との情報交換や全国からの情報を元に早急な誘致を目指している。また、新たな工場団地の候補地を検討する。



歩道も整備され、企業誘致に向け準備万端 (金山工場団地)

独居高齢者の介護は

問 身寄りのない独り暮らしの高齢者が、介護が必要になった場合、どのように対応していくのか。

答 個人に合った対応が求められるので、地域包括支援センターが窓口になり、介護サービス事業所等につなげ、必要なサービスが受けられるよう対応する。

証 検

新年度予算

予算審査特別委員会

会期中4日間にわたり、町長、副町長、教育長及び担当課長等の出席を求め、令和7年度の予算審査を行いました。質疑の一部を要約してお知らせします。

生成AI活用は

問 人口減少社会において、デジタルツールでの業務効率化は重要である。どのように取り組むのか。

答 業務の補助機能として生成AIを職員が利用できるほか、録音データの自動文字起こしツール等も用いて業務効率化に努めていく。

訪問介護は持続可能か

問 訪問介護事業所が町内にはない。訪問介護員の確保は十分か。

答 現在町内には事業所はないが、角田や近隣市町の事業所から派遣を受けているので確保されている。

温暖化対策補助金は

問 これまでの事業内容の見直しにより、補助金をどのように拡大したのか。

答 電気自動車購入の補助を上限10万円とすることとした。個人が購入する薪ストーブで工事費用も含め50万円以上のものに対して5万円を補助する。

ふるさと同窓会とは

問 19歳から45歳までの町出身者が、10人以上で町内で開く同窓会に補助金を出すのはなぜか。

答 一人2000円を補助すること、ふるさと丸森での交流を後押しし、Uターンのきっかけをつくる。

中心商店街無電柱化は

問 県道丸森霊山線の無電柱化工事はどう進めるのか。

答 斎理屋敷前から商工会までの約250mを無電柱化する工事で、令和7年度

中に県道を町道化する手続きを進め、8年度以降に迂回配線方式による無電柱化をすすめる。7年度は近隣住民や事業者の理解が得られるよう説明に努める。

齋理幻夜に工事の影響は

問 齋理幻夜は35周年記念の催しもあり来場者増加が見込まれるが、八雄館新築工事による影響と対策は。

答 当日駐車場となる役場からの動線上に夜店エリアを拡大する案など、なるべく出店者数を減らさずに対応できるよう齋理幻夜の夜店部会で検討を進めている。

道路愛護への支援は

問 道路愛護費はどのような基準で引き上げたのか。

また、路線の見直しや支障木への対処は。

答 人件費が7年前に比べ上昇している。上昇率を基に1.4倍に引き上げた。路線の見直しは地域の実情をつかみ対応していくとともに、支障木伐採には報償費を上乗せしている。



無電柱化で景観に配慮した街並みに



町内で進む果樹生産（上滝地区）



温暖化対策補助金の拡大で薪ストーブも対象に

まちづくりへの要望

所管事務調査、予算審査を通じ、各常任委員会から出された要望事項を取りまとめ、議会として9項目を町長に要望しました



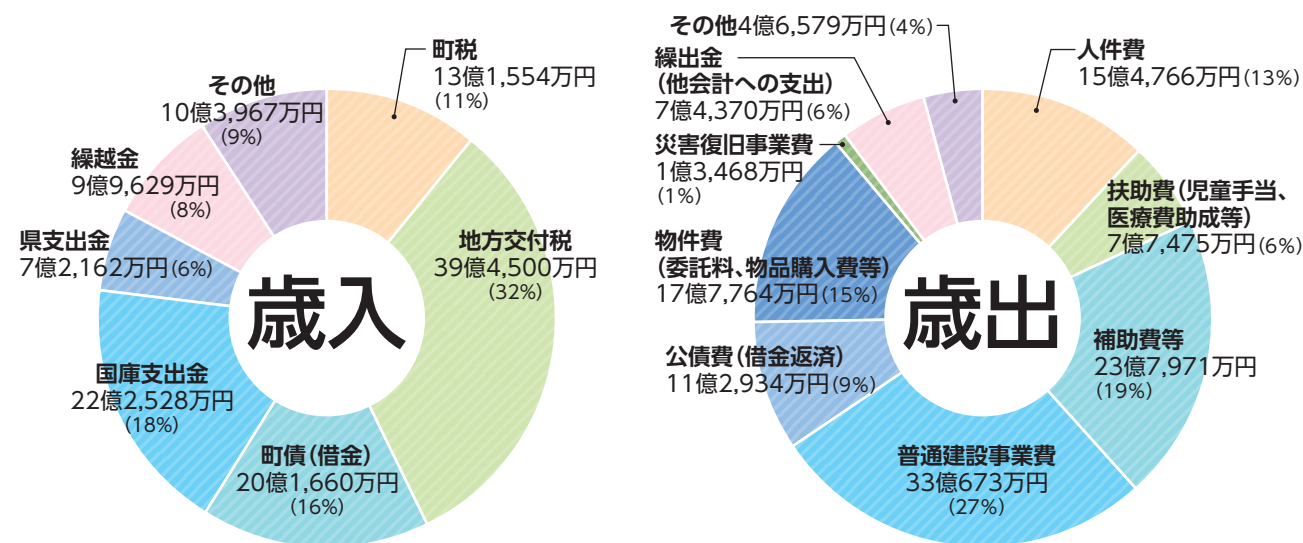
教員とALTで行われる英語の授業（丸森中学校）

国際化社会に向けた
英語教育を

- ◆ 国際化社会に向けて、語学力は重要なコミュニケーションツールである。ALTや国際交流を活かし、児童生徒が実践的な英語を修得できるように積極的に進めること。
- ◆ 納税組合の存続支援はもとより、個人が納付しやすいように端末やコンビニなどの利用増加を図り、確実な収納に取り組むこと。
- ◆ 全国的に凶悪犯罪が多発している。防犯協会などの組織と連携しながら犯罪抑制のための取り組みを積極的に行うこと。
- ◆ 空き校舎は、住民と連携して地域の活性化につながるよう有効活用を図ること。
- ◆ 阿武隈急行線は、町の観光や住民の足として大変重要である。更なる利用促進に向けて取り組むこと。
- ◆ 丸森病院は医師と看護師の確保に引き続き取り組み、療養病床をはじめ町民が安心できる医療体制の充実に努めること。
- ◆ 第二次丸森町農業振興ビジョンに掲げる農業産出額55億円の目標達成に向けて、当ビジョンを着実に推進すること。
- ◆ 金山工場団地が整備された。全庁挙げて企業誘致を実現すること。
- ◆ 道路整備計画の見直しについては、地元との十分な協議を行い、策定作業を進めること。

令和7年度 予算を可決

一般会計予算は122億6,000万円



各種会計 当初予算の比較

会計名	令和7年度	令和6年度	伸び率
一般会計	122億6,000万円	108億3,000万円	13.2%
特別会計			
国民健康保険	17億1,320万円	18億1,510万円	▲5.6%
後期高齢者医療	2億540万円	2億430万円	0.5%
介護保険	19億3,470万円	19億9,880万円	▲3.2%
宅地造成事業	60万円	30万円	100.0%
工場団地造成事業	1億6,320万円	1億6,470万円	▲0.9%
小計	40億1,710万円	41億8,320万円	▲4.0%
計	162億7,710万円	150億1,320万円	8.4%
病院事業会計			
収益的支出	13億933万円	13億8,644万円	▲5.6%
資本的支出	2億9,073万円	13億6,068万円	▲78.6%
水道事業会計			
収益的支出	3億9,491万円	3億9,538万円	▲0.1%
資本的支出	3億5,996万円	2億1,113万円	70.5%
下水道事業会計			
収益的支出	4億5,915万円	4億2,947万円	6.9%
資本的支出	13億786万円	13億4,799万円	▲3.0%

※収益的支出とは、人件費や材料費など業務運営に係る支出。
※資本的支出とは、工事費や過去の建設工事のために借り入れたお金の返済など財産に係る支出。

次の議会は

6月11日(水) 午前10時

開会予定

●日程が変更になる場合があります。

問い合わせ先 議会事務局
☎0224-72-3038



スマホで議会が見られます

本会議の映像をネットで

ライブ中継しています

●一般質問は過去の録画映像を常に視聴できます。



一般質問 町政を問う

一般質問とは、町に対して事務の執行状況や将来に向けての考えをたずねるものです。今回は10人の議員が質問しました。

ページ	議 員	質 問 事 項 と 回 答
12	渡 辺 政 巳	●災害の検証と対応策は 町長 改善を図り対応する
13	鈴 木 美智子	●高齢者と家族の安心支援は 町長 体制を整え周知に努める
14	中津川 かおり	●畜産資源で地域おこしは 町長 未来への挑戦である
15	山 本 明 徳	●学校へのエアコン設置は 教育長 計画的に進める
16	金 森 裕 之	●復旧復興とインフラ整備は 町長 財源確保し進める
17	八 巻 眞 由	●ジェンダー平等の推進を 町長 住民の理解が極めて重要
18	板 橋 勇	●10年後の農地維持は 町長 実情に合わせた法人設立
19	石 井 央	●1小1中の実現を 教育長 総合的に検討する
20	大 槻 孝 雄	●若者の定住促進策は 町長 積極的に若者ニーズを反映
21	菊 池 修 一	●防犯カメラの設置を 町長 試験的に設置し検討

条例の制定

災害時の活動拠点を設置

災害時の活動や観光交流の拠点として整備する丸森町MIZBEステーション(河川防災ステーション)の設置及び管理に関する条例を制定しました。

この施設は町が整備するかわまち交流センター(水防センター)と国が整備する芝生広場等の公園施設、民間事業者が活用するエリアで構成されており、公の施設として指定管理者が一体的に管理をします。

災害時には町長からの要請により、指定管理者やその他の関係者は、災害対策活動に協力する内容になっています。

郵便局の指定

マイナンバーカード手続きが可能に

マイナンバーカードに内蔵された電子証明書の更新手続きが耕野の簡易郵便局を除く7郵便局で取り扱いできるようになります。

電子証明書には有効期限があり、発行日から5回目の誕生日までに更新手続きが必要です。



更新手続きを郵便局がお手伝いします

更新手続きは、対象者がカードと期限の3か月前に届く有効期限通知書を郵便局に持参し、申請します。このほか、暗証番号の初期化等に関する手続きも取り扱います。

カード本体の更新申請の際は、顔写真の撮影もサポートします。

取り扱い開始は令和7年9月1日を予定しています。

町有財産を無償貸付

旧金山保育所を障害児通所支援施設へ

貸付する財産
旧金山保育所の土地・建物
(金山字下前川原30番地)
貸付の相手方
合同会社ENGAWA
代表社員 菅野智嘉子
(金山字表小路23番地2)



4月8日に開所した多機能型事業所 ひだまり

貸付の理由

町内で初めての障害児通所支援施設を開設し、障害者福祉の充実と子育て支援、金山地区の地域振興につながることから、無償で貸し付けます。

貸付の期間

令和7年3月24日から12年3月23日まで(5年間)

主な事業内容

旧金山保育所の施設を活用して、障害児通所支援事業のうち、3歳以上の未就学児が対象となる児童発達支援と小学生以上の就学児が対象となる放課後等デイサービスを行います。

児童発達支援事業

利用定員 1日 4人

放課後等デイサービス

利用定員 1日 6人

実施日(共通)

月曜日から金曜日・祝日

高齢者と家族の安心支援は

町長 体制を整え周知に努める



鈴木美智子 議員



一般質問動画

本町でも増加しているとみられる高齢者世帯と高齢独居者への施策について、町長に問う。

問① 高齢になり自身がどんな終末期を迎え、財産をどう相続するか等をまとめたのがエンディングノートであるが、死後にそれを継ぐ者がいなければ意味のないものになってしまう。

不安を取り除く取り組みとして、終活の相談窓口を設置してはどうか。

答① 令和5年度末の高齢者単身世帯は946世帯、夫婦のみ高齢者世帯は753世帯で年々増加し、地域包

括支援センターが高齢者の将来への不安等の相談窓口になっている。

また、住民自治組織が開催した終活セミナーは不安を取り除く対応策のひとつであり、町でも終活の意義についての啓発に努め、高齢者が安心して暮らせる取り組みを検討する。

問② 介護保険の要支援認定を受けた方が歩行困難になる等の体調変化や、家族が介護方法に困った時には、休日でも役場に相談できる周知を含め、相談に応じる体制をどう整えているか。

役場の電話番号と休日も相談できることを紙に記載して、自宅の目につくところに貼り出し周知してはどうか。

答② 令和7年1月末の要支援認定者は135人で、その約8割を地域包括支援センターの介護支援専門員が担当している。

年末年始等の長期休日も職員が当番で連絡が取れる



休日の相談はお電話ください（町民の安心窓口 地域包括支援センター）

体制を整えており、高齢者や家族が安心して過ごせるように体制の周知に努める。

問③ 災害時の個別避難計画策定に福祉専門職の参画が

必要ではないか。

答③ 個別避難計画策定率は72%で、未策定の解消に向け福祉専門職等との連携も視野に入れた取り組みについて話し合いを進める。

災害の検証と対応策は

町長 改善を図り対応する



渡辺 政巳 議員



一般質問動画

最近の気候を考えると、また同じような大雨が降る可能性がある。令和元年東日本台風災害の検証結果と対応、今後の対策について3点町長の所見を問う。

問① 対策会議の招集と消防団の招集指示はいつ行なったのか。区長へ災害状況の把握や、民生委員へ高齢者避難誘導依頼はしたのか。排水ポンプ2台はいつ指示し誰が始動したのか。町民へ避難の周知は十分だったか。避難所の場所は適切だったのか、初動体制の検証と対策は。

答① 令和元年台風19号災害



丸森雨水ポンプ場

検証委員会を令和2年2月に設置し、6月には基本方針及び改善内容について、提言書が提出された。提言書をもとにさまざまな対応と対策を実施、新たな避難場所も確保している。

問② 災害に際し多くのボランティアが、受付開始時間前からボランティアセンターに並び、災害現場にはそれぞれ地図を見て駆けつけていた。被災者の立場、ボランティアの立場を考慮

した対応について検証結果は。

答② 丸森町社会福祉協議会では令和2年6月に、センター運営について総括した災害ボランティアセンター運営報告書ではさまざまな問題があげられている。今後運営マニュアルをもとにより円滑な対応を実施していく。

問③ 次郎太郎山に降った雨は、阿武隈川、寺沢川、新

川に分かれて流れている。寺沢川から流れる水だけでは役場周辺の水量になるとは考えにくいため、水量の分析と検証が必要と考えるが、今後の対応は。

答③ 寺沢川の水は新設する直接放流管、既存の丸森雨水ポンプ場、排水ポンプ車及び新設する神明南雨水ポンプ場により、住宅の浸水被害は発生しない見込みである。

学校へのエアコン設置は

教育長 計画的に進める



あきのり 山本 議員



一般質問動画

問① 中学校の全教室及び小学校の普通教室と図書室にエアコンが設置された。小学校の特別教室や体育館へのエアコン設置を進め、快適な学習環境を提供すべきではないか。

答① 2つの小学校からは、理科室と英語活動室へのエアコン設置の要望が出されたが見送った。

町は、子どもたちが学んだり生活する学校の施設を整えたり、先生方が働きやすい学校にするために努力しなければならない。そのために、次の3点について教育長に問う。

問② 先生方が健康で働き続けるためには、休憩時間がしっかり確保されていることが必要である。

答② 子どもたちが学校で生活しているという教育現場の特性から、休憩時間を20分と25分に分けて割振っているが、きちんと取れているか実態を調査する。

問③ 学校にこない、来ることができない子どもが増えている。子どもたちの意識調査をして、子どもたちの思いが生きる学校づくりを



避難所でもある体育館へのエアコン設置は防災面でも重要（館矢間小学校体育館）

すべきではないか。

答③ 各学校では、独自アンケートを実施し、子どもの声に耳を傾け不登校の早期発見に役立てている。

また、結果内容を教育委員会でも共有するとともに、学校評議員からの意見や保護者アンケートの結果も学校経営に活かしている。

畜産資源で地域おこしは

町長 未来への挑戦である



なか つか がわ 中津川かおり 議員



一般質問動画

今後の農業振興には、農業産出額の達成率が低い園芸分野の底上げに取り組むことに加え、伸びている分野をさらに強化する施策も必要と考える。町は県内多数の酪農地帯であり、令和5年度の畜産分野の農業産出額は108%を達成している。

また畜産は、町の農業産出額の7割を占め、後継者も確保されている傾向にある。畜産資源を活用した特産品開発プロジェクトは、大いに期待できるものであり、実現に向けた今後の方針を町長に問う。



後継者の育成がすすむ本町の酪農業界（令和6年11月モーモーまつり）

問① 第二次丸森町農業振興ビジョン案では、畜産資源を活用した特産品開発プロジェクトに、地域おこし協力隊を活用した起業者の募集とある。募集の間口を広げるため、短期宿泊で農業が体験できるインターンシップ制を導入してはどうか。

答① 有能な人材確保の裾野を広げることや、採用後のミスマッチを防ぐうえで、このインターンシップ制度は有効な手段であるため、この制度の活用も視野に入れた募集方法を検討する。

問② 町内の酪農家は、地域おこし協力隊を受け入れる余裕がないとの意見もある。畜産系特産品開発に地域おこし協力隊を採用する場合、受け入れ先をJV※にできないか。

答② 酪農家と人材育成に精通した事業体とのJVによる受け入れ体制の整備について、酪農家の負担軽減が図られるとともに、商品化の実現に向けた有能な人材育成が期待できると考える。確実かつ効果的な人材の確保と育成につながるようさらに検討していく。

このプロジェクトは、本町の酪農振興のみならず、交流人口の拡大や町の活性化をも見据えた未来への挑戦である。

※JV
ジョイントベンチャーとは
2つ以上の事業者が共同で事業を行うために協力する体制のこと。

ジェンダー平等の推進を



や ま き ま ゆ
八 巻 眞 由 議員



一般質問動画

町長 住民の理解が極めて重要

問①男女共同参画計画の策定は努力義務化されており、全国で85%以上が策定しているが本町は未策定である。

本町は若年女性の減少率が県内で最も高い。町は、減少対策について課題の本質を再考すべきではないか。根本的な原因のひとつに、廃止から80年近く経つにも関わらず、地方に根深く残る家父長制的感覚により、性別による役割の固定化や差別、また人権意識の欠落、時代感覚の欠如による時代錯誤な発言などが今もなお存在していることが関係していると考え、町長に問う。

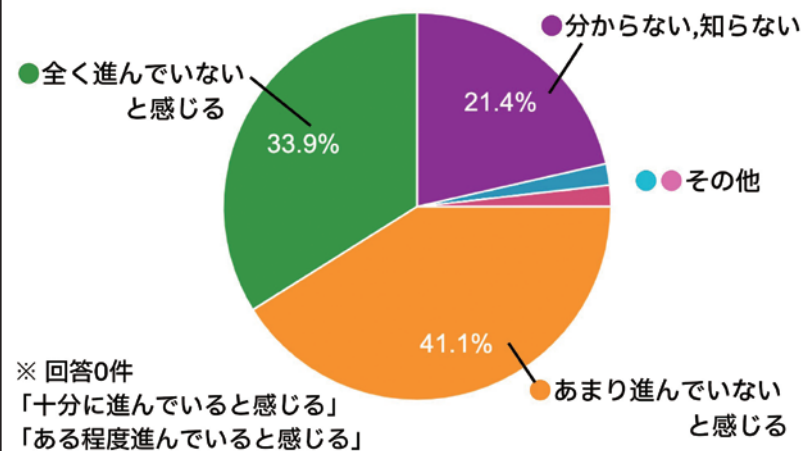
答①男女共同参画の推進は欠かせない視点で、前期基本計画にも位置付けている。男女共同参画基本計画策定の可否は検討する。

問②形だけの計画は意味がない。人権や多様性の尊重、ハラスメントや古い慣習の見直し等の知識と行動規範を示す冊子を作成し、全戸配付や研修会を通じて住民の意識改革を促すと同時に、ジェンダー平等宣言を行うことを提案するがどうか。

答②自治組織等各種団体での女性参画や、平等な家庭生活の実現に向けて、教育や広報を通じて関係機関と連携しながら推進していく。

問③町長はまちづくり懇談会等複数の場で、少子化対策のためには家庭が大切である。仕事は町から通える範囲で選び、適齢期になったら結婚するのだということとを、家庭内で子どもや孫に伝えていく必要がある。

Q、丸森町は、ジェンダー平等に関する理解や取り組みが進んでいると感じますか？ (回答者 56名)



八巻眞由のSNSで丸森町の女性を対象に実施した意見調査「進んでいる」との回答は0件 (令和7年2月実施)

という旨の発言をしているが、これは個人の価値観や選択の自由を阻む可能性があり、時代錯誤な発言だと感じる。町長という立場での影響力が懸念されるが、今後改める考えはあるか。

答③考え方が多様化していることは承知している。私自身の例であり、強制するものではないので、今後は趣旨が伝わるよう留意する。

復旧復興とインフラ整備は



かなもり ひろゆき
金 森 裕 之 議員



一般質問動画

町長 財源確保し進める

問①国道349号別線整備事業の進捗状況と、既存道路の管理はどうするのか。

また、丸森霊山線の改修や改良工事の要望があるが、

令和2年に策定された丸森町復旧・復興計画は6年度で完了する予定であったが、国の事業が追加され、2年延長となった。

町全体の復旧復興が進むなか、工事車両の往来による道路の損傷で修繕が必要となるなど、地域住民の交通への影響が出ている。このような状況から今後のインフラ整備について町長に問う。



大型車両の往来によって損傷した道路 早期の改修を望む (県道丸森霊山線)

町として今後の管理をどう行っていくのか。

答①令和7年2月現在、橋梁工事は完了し、トンネルも6年11月にすべて貫通した。7年度中には開通予定である。既存道路は、町に

移管され維持管理を行う。また、丸森霊山線は両県から、全線改良は難しく、拡幅できるところから順次進めていきたいとの回答であった。

問②丸森町道路整備計画は策定されてから10年が経過している。計画の見直しを検討する必要があると考えるがどうか。

答②台風からの災害復旧を優先するため一時休止した。令和4年度から順次事業を再開し、8年度以降は計画を見直し、財政状況を考慮しながら進めていく。

問③町は、人口減少により公共施設の道路や建物、水道といった公共インフラの需要が減る。一方で税金なども減ると推察される。住民が安全で安心な生活環境を確保しつつ、町はさまざまなインフラ整備に取り組む必要があると考えるがどうか。

答③丸森町公共施設等総合管理計画に基づき、効果的に修繕や整備をしている。財源をしっかり確保し、引き続き重要度の高い施設等を優先して維持、改修を進めていく。



いしひ 石井 議員



一般質問動画

1小1中の実現を

教育長 総合的に検討する

問①第六次町総合計画前期基本計画が示された。5年後に目指す姿として、児童生徒が自ら学ぼうとする意欲をもって自立学習に取り組み、確かな学力を身につけるとともに、変化する社会にあっても生きる力を発揮することができ、教育環境づくりを推進している。

さらなる少子化が進行する本町にあって1小1中の実現は重要課題と考え、教育長に問う。

答①児童生徒数が減少するなか、小学生と中学生が学校を共有して学ぶ小中一貫校や義務教育学校等も視野

問②小中連携による英語学習、国際教育の取り組みは。

答②国では、小学校における英語教育の拡充、強化を推し進めており、令和2年度から新学習指導要領にもとづいた英語教育が始まっている。正しい英語の発音と綴りを連動させて学ぶフォニックスを活用した指導にも力を入れながら英語によるコミュニケーション能力の育成を図っている。

さらに6年11月に台湾の小中学校と姉妹都市協定を締結し、国際交流活動やオンライン交流を通して英語で会話する環境づくりに取り組んでいる。



生きる力を育む教育を（丸森小学校）

問③自校炊飯による食育の充実。

答③食育推進基本計画が策定され、家庭での食育や地域を巻き込んだ食育教育を

推進している。

今後の給食センターの在り方は重要課題であり、小中学校の在り方と併せより良い方策を検討する。

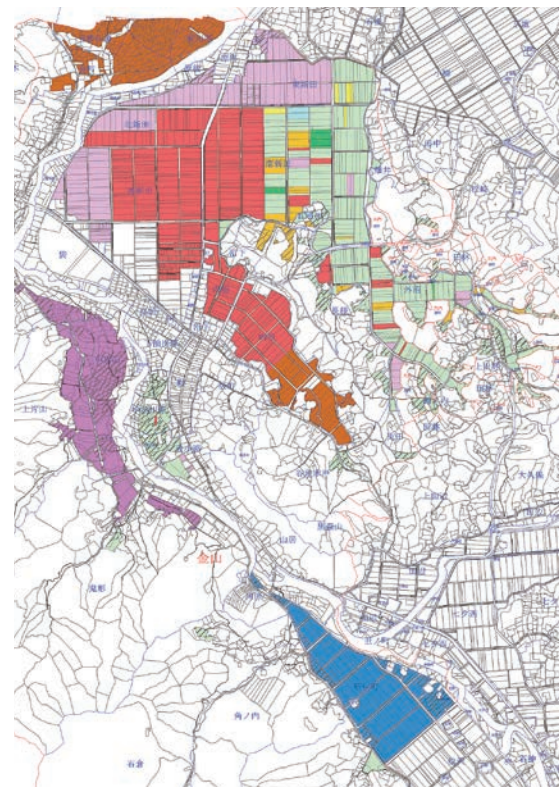
10年後の農地維持は

町長 実情に合わせた法人設立

町は第二次丸森町農業振興ビジョンを策定している。令和5年4月に農業経営基盤強化促進法が一部改正され、各市町村に対し6年度末までに地域計画が義務づけられた。町長に問う。

問①旧町村単位で地域計画と目標地図は作成されたのか。それらは公表するのか。

答①関係団体や関係機関で構成する丸森町地域計画検討委員会が町を8地区に分けた地域計画と目標地図に了承を得た。今後は法令の規定に従い策定後は丸森町地域計画として、町のホームページ等で公表する



地域計画目標地図（金山地区）

ほか、関係機関と連携し担い手の確保と、担い手への農地の集積、集約や効率的で効果的な農地利用の推進を図る。

問②旧町村単位での稲作耕作面積と、大規模耕作者数は。

答②丸森地区114ha金山地区105ha筆甫地区13ha大内地区222ha小斎地区187ha館矢間地区170ha大張地区45ha耕野地区13haである。

経営面積が10ha以上の大規模耕作者数は丸森、金山、小斎地区それぞれ3経営体、大内地区4経営体、館矢間地区2経営体で、筆甫、大張、耕野地区にはない。

問③旧町村単位での令和6年度末の稲作放棄面積は。

答③丸森地区97ha金山地区14ha筆甫地区69ha大内地区92ha小斎地区18ha館矢間地区50ha大張地区73ha耕野地区61haで、丸森町全体で4

74haである。

町は人口減少のスピード以上に進む農家の加速度的な減少を深刻な問題と捉えている。農地の受け皿となる大規模経営体の育成も、これまで進めてきた集落営農法人の設立を従来の集落ぐるみ型にこだわらず地域の実情に合わせた形態を考えて、一部の担い手型や集落の域を超えて組織する広域型など、地域の実情に合わせた法人成立を推進する。



いたばし 板橋 議員



一般質問動画

防犯カメラの設置を

町長 試験的に設置し検討

問① 地域社会には、さまざまなコミュニケーションがあり、地域の問題を解決に導いてくれる人間関係があったが、現在では個人情報保護により隣近所との情報を共有することが難しくなった。このような社会現象を背景に高齢者世帯を狙った強盗殺傷事件が発生し、住民に不安が広がっている。住民への防犯意識を啓発するとともに防犯カメラの設置を積極的に展開すべきと考え町長の見解を問う。

答① テレビや新聞で犯罪被害等のニュースが報道されている。本町として犯罪の抑止効果や犯罪が発生した

際の犯人逮捕に向けた捜査で、防犯カメラの設置は大変有効であるが検討すべき課題もあると認識している。令和7年度は、試験的に学校や庁舎等に設置し、効果的な運用方法等について検討したい。他の自治体の事例を参考に警察署や防犯協会と協議していく。

問② 子どもや高齢者が犯罪や交通事故に巻き込まれるケースが増加するなか、小中学校のスクールバスによる送迎は大きな安心を提供しているが、乗降場所から自宅までの安全対策や環境は十分とはいえない。徒歩や自転車の通学路も同様に危惧される。最優先で通学路の危険箇所を検証し犯罪や事故の温床とならないように防犯灯の設置を推進すべきではないか。

答② 防犯灯は地区防犯協会

が設置し、維持管理は町が行っている。通学路への設置については犯罪等の防止及び安心と安全の向上のために必要な措置であると認識している。必要箇所を調査のうえ、教育委員会、学校及び地区防犯協会と協議しながら設置に向けて検討する。また、教育委員会としても通学路を毎年検証しながら安全対策に取り組んでいく。

若者の定住促進策は

町長 積極的に若者ニーズを反映

本町は若者定住に数々の支援策を打ち出してきたが、転出は止まらない。定住策について町長に問う。

問① 若者のニーズを取り入れるため対話の強化が必要である。どのように行うか。また玉川住宅跡地を整備し廉価で分譲してはどうか。

答① 若者世代がまちづくりに参加する機会をつくり、子ども・子育て会議や妊産婦相談などで積極的に若者のニーズを把握する。玉川住宅跡地は宅地整備分譲も含め早急に検討していく。

問② 物価高騰の中、しあわ



宅地整備 分譲が待たれる玉川住宅跡地(館矢間地区)

問③ 町が空き家を借り、改修し賃貸する新規事業を始める。移住者増につなげるには年3から5戸の供給が必要と考えるがどうか。

答③ まずは空き家1棟から修繕、賃貸を考えている。今後も定住人口の増加につなげるよう、さまざまな取り組みを検討して行く。

問④ 子どもの遊び場として、室内の遊び場が切望されている。今回建設される水防センター内に設置する考えはあるか。

答④ 1階2階に、子どもや保護者も利用できるスペースを設け、2階には勉強にも使えるカウンター、屋外には滑り台も設置する。

問⑤ 角田市において小児科の開設に1億円を投じる報道がなされた。本町も関わり早期開設の支援や、産婦人科通院への交通費を補助してはどうか。

答⑤ 小児科の確保は広域的な課題でもあるので、今後の動向を注視し情報の把握に努める。妊産婦へ各種支援があるので産婦人科への通院補助は考えていない。



おおつき たかお 議員
大槻 孝雄



一般質問動画

せ丸森暮らし応援事業制度で、特に住宅取得、空き家再生事業補助金の大幅な増額が必要と考えるがどうか。

答② 建築費用は昨年と比較して極端な上昇は見られず増額は考えていない。5年

間の金利を0・5%引き下げ、特に住宅取得、空き家再生事業補助金の大幅な増額が必要と考えるがどうか。

問③ 町が空き家を借り、改修し賃貸する新規事業を始める。移住者増につなげるには年3から5戸の供給が

必要と考えるがどうか。

答③ まずは空き家1棟から修繕、賃貸を考えている。今後も定住人口の増加につなげるよう、さまざまな取り組みを検討して行く。



きくち しゅういち 議員
菊池 修一



一般質問動画



犯罪防止に効果のある防犯カメラ

議会懇談会での 民意はどうなったのか

令和6年5月の懇談会での質問等について確認・調査した結果を報告します。

所管 産建教育常任委員会

「傷んだ道路の修繕を」

問 災害復旧工事による大型車両の通行で、道路が傷んでおり、事故につながる危険がある。

答 各道路とも中途半端な補修では事故につながる。町担当課を通して県や国に引き続き要望していく。

「企業誘致は」

問 金山工業団地が造成された。働く場の確保先としては工場の誘致は欠かせない。見通しはどうか。

答 今のところ企業は決まっていないが、分譲価格を1億6280万円に設定し、東京や名古屋での企業立地セミナーに参加するなど、全庁挙げて取り組んでいる。



楽しく 和やかに（令和6年度 館矢間地区敬老会）

「敬老祝いの在り方は」

問 町からの敬老祝いに限っては特別な節目に限り、それ以外の予算を子育て支援に充ててはどうか。

答 敬老記念品については、

年齢や内容、配付方法など見直しが必要だと認識している。関係各課や住民自治組織とも協議し、敬老祝いの適切な在り方を検討する。

「移住定住予算総額は」

問 人口減少対策として、移住定住支援にかけている予算の総額はいくらか。

答 令和6年度当初予算は、移住定住サポートセンターの運営費や、センターを拠点に活動する地域おこし協力隊の事業費、移住相談会や移住体験ツアー費用のほか、住宅取得の補助金、テレワーク・子育て事業など、5560万円を計上した。7年度では新たに、空き家を町が改修して貸し出す事業にかかる費用や、事前に短期間地域に入って活動することで具体的なイメージを持つことができる、地域おこし協力隊インターンの事業費なども加え、総額6480万円の当初予算額を計上している。



こんなに大きな石が立ってます（丸森地区 立石）

「街中トレイルコースを」

問 百々石公園が整備される。防災ステーションを起点とした街中周遊コースをつくってはどうか。

答 百々石公園の再整備を進めるとともに、斎理屋敷、丸山城址、立石など町の名所を結ぶウォーキングコースを検討していく。

所管 総務民生常任委員会

「旧校舍活用の支援は」

問 旧耕野小学校の活用には、地区住民の負担とならないよう、支援と補助を要望する。

答 令和6年度、当初予算に改修工事の設計委託料として2260万円が計上された。8年3月には完成し、自治組織の移転先や農産物加工場等の拠点として整備される予定である。

議会懇談会開催のお知らせ

議会懇談会は、議会の報告及び町民と議員が意見交換を行う大切な場として開催しています。

令和7年度第1回目の懇談会は、伊手コミュニティセンターと各まちづくりセンターを会場に開催します。

皆さまの参加をお待ちしています。

日時	5月21日（水） 午後7時～9時	5月22日（木） 午後7時～9時	5月26日（月） 午後7時～9時
場所	金山まちづくりセンター 館矢間まちづくりセンター 伊手コミュニティセンター	筆甫まちづくりセンター 小斎まちづくりセンター 大張まちづくりセンター	丸森まちづくりセンター 大内まちづくりセンター 耕野まちづくりセンター

所管事務調査

予算に関して所管の課から
聞き取りや現地調査を行いました

総務民生 常任委員会

- ・総務課
- ・企画財政課
- ・町民税務課
- ・保健福祉課
- ・子育て定住推進課
- ・会計室
- ・丸森病院
- ・選挙管理委員会
- ・監査委員
- ・固定資産評価審査委員会

この調査に注目

◆町民税務課
書かない窓口の検討について
◆委員長コメント
「窓口での申請手続きが簡単に」



マイナカードを置くだけ簡単手続き

町民税務課の窓口では住民票や税証明書等において申請書記入の負担軽減を図るため、新たに「書かない窓口」を進めている。

調査では、実際にマイナンバーカードや運転免許証を利用しての顔認証による本人確認や住所・氏名等が記載された各種申請書が専用端末から簡単に発行されることを確認できた。運用開始は7月1日の予定。負担の少ないやさしい窓口を期待する。

総務民生常任委員会では、6課について12項目の説明聴取及び現地調査を行った。

産建教育 常任委員会

- ・農林課
- ・商工観光課
- ・建設課
- ・教育委員会
学校教育課
生涯学習課
- ・農業委員会

この調査に注目

◆建設課
林道鷺の平線災害復旧工事の状況
◆委員長コメント
「災害復旧工事林道の早期開通を望む」



復旧工事を阻む強固な岩盤

林道鷺の平線を現地調査した。令和元年から6年経過した通行止めが続いている。

道は被害が大きく、砂防ダムの改良工事との兼ね合いや崩れやすい山側の補強工事が複数あり、一時的な開通はあるものの完全開通には未だ時間がかかる。

鷺の平線は地区民の生活道であり、岩岳への登山口にもつながり、観光においても重要な路線であるので、早期の開通を望む。

産建教育常任委員会では、4課について8項目の説明聴取及び現地調査を行った。

丸森町議会ハラスメント 調査特別委員会を設置

平成29年の町議会議員による町職員に対するハラスメント行為等に関する調査を行い、再発防止に向けた対策を検討するため、令和7年第2回丸森町議会臨時会で「丸森町議会ハラスメント調査特別委員会」を議員発議で設置しました。

委員会は正副議長及び当該議員を除く11人の議員で構成し、委員長は菊池修一議員、副委員長は渡辺政巳議員です。

なお、正副議長はオブザーバーとして委員会に出席し、情報を共有することにも、他自治体の事例などの助言を行います。

議員の会議出席状況

令和7年1月～3月31日			○：出席　×：欠席　△：遅刻・早退　－：員外													
月	日	公務名 ※丸森町議会及び宮城県議長会、仙南議長会が主催している会議や研修等を抜粋しています。 ※会議名等は略称を使用しています。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
			八巻 眞由	中津川 かり	大槻 孝雄	金森 裕之	山本 明徳	鈴木美智子	大槻 正儀	渡辺 政巳	菊池 修一	石井 央	海川 正則	板橋 勇	船山 俊一	佐藤 吉市
1	8	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	9	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
	9	議会運営委員会	－	－	－	○	－	○	○	○	○	－	○	－	○	○
	10	議会広報常任委員会	○	○	○	×	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	20	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	15	県議長会議員講座（希望者のみ）		○	○		○									
	24	第1回議会臨時会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	24	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	30	仙南・亘理地方議会議員合同研修会	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	○	○
	3	議会広報委員会視察調査　P26掲載	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	3	宮城県町村議会正副議長研修会（3/3-3/4）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○
	7	議会運営委員会	－	－	－	○	－	○	○	○	○	－	△	－	○	○
	7	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	△	○	○
	13	町村議会広報クリニック（東京）P27掲載	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	18	第2回議会臨時会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	20	県議長会定期総会	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
	26	丸森町議会ハラスメント調査特別委員会	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	－	○	○	○
3	26	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
	26	議会運営委員会	－	－	－	○	－	○	○	○	○	－	○	－	○	○
	27	所管事務調査（総務民生常任委員会）P24掲載	○	－	－	○	－	○	－	－	○	○	△	○	－	－
	28	所管事務調査（産建教育常任委員会）P24掲載	○	○	○	－	○	－	○	○	－	○	－	－	○	－
	4	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－
	4	第3回議会定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
	7		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
	10		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	18	予算審査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	－
	11		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	－
	12		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	－
	13		○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	－
	14	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	－
	17		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	11		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	12		丸森町議会ハラスメント調査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
17	総務民生常任委員会		○	－	－	○	－	○	－	－	○	－	○	○	－	－
17	産建教育常任委員会	－	○	○	－	○	－	○	○	－	○	－	－	○	－	
17	議会運営委員会	－	－	－	○	－	○	○	○	○	－	△	－	○	○	
28	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	

委員会活動レポート

議会には、3つの常任委員会（総務民生・産建教育・議会広報）と議会運営委員会があります。今回は、議会運営委員会・議会広報常任委員会が行った、視察調査・研修について報告します。

議会運営委員会

平常時にぎわいの場になった。
令和7年1月28日、河川防災ステーション運営等の参考に、道の駅常陸大宮で現地調査と聞き取りを行った。直売所や公園があり、河川敷は通年通してバーベキューやキャンプなどに利用できる。年間60万人の来場者と約8億円の売り上げがあり、大いに参考に

なった。
翌29日は、議員定数見直しや報酬のあり方の参考に茨城県大子町議会を訪問して聞き取りを行った。
1月1日現在の人口が1万3878人で議員定数は11名まで削減して議会運営を行っており、民意反映の取り組みなど参考になった。
大槻正儀 副委員長

議会広報常任委員会

町民視点の広報紙
令和7年2月3日、全国町村議会広報コンクールで最優秀賞や優秀賞、優良賞を受賞している山形県川西町議会を訪れ、広報記事や写真の編集過程等について聞き取りを行った。文章アドバイザーに元議員と元町職員、写真写真愛好家が協力

しており、広報モニターを依頼して意見を掲載し、議会定例会終了後の1カ月以内に発行する体制を整えている。
学んださまざまな取り組みを参考に、真似をするのではなく丸森町議会オリジナルの広報紙の作成に努めたい。
鈴木美智子 委員長

1月28日から29日

道の駅 常陸大宮（茨城県）
茨城県大子町議会



石のアートが飾られた河川敷への出入り口
(道の駅 常陸大宮 かわプラザ)

2月3日

山形県川西町議会



かわにし議会だよりは6名の広報委員と町民が参画し編集している

議会広報常任委員会

読まなければ紙ゴミ
どれだけの皆さんに読んでいただけているのだろう。いや、その前に手にとっていただけているのだろうか。手に取り読まれる紙面づくりを心がけて編集しているがどうだろうか。
令和6年11月は仙台、7年2月は東京で研修会に参加した。

読み手が一目で分かる見出しやレイアウトを工夫する。堅苦しい議会用語を平易な言葉で表現する。より多くの町民に登場していただくなど。
しかし何よりも、町民の願いや思いがどれだけ町政に反映されているか、実現されているかが要であろう。
山本明徳 副委員長

宮城県町村議会

広報選考会入選

県町村議会広報選考会で、令和6年5月1日発行の第267号が入選しました。議案審査の公開にページを多くとり高水準の編集で、一般質問は質問と答弁見出し、関連写真がそろい読みやすく、QRコードからの動画案内も適切と評価されました。
改善点のひとつに、町民の声が反映されていることを強調したいとの意見がありましたので、今回の7年5月1日発行号から町民の声を掲載していきます。
鈴木美智子 委員長



町民の声を活かした広報紙を目指します

議会を傍聴して

一般質問に共感

私も肩や膝が悪くなり、自分のことと納得して聞いていました。介護や終活の相談ができるのはとても頼りになります。そんな優しいまちを期待しています。

舘矢間地区 加藤 洋子さん

だいぶ前になりますが、丸森町の牛肉を購入して食べました。

以前のように地元の美味しい牛肉が食べられるようにしてほしいです。町外の友人にも分けてあげたい。

舘矢間地区 河東田みどりさん



写真向かって左が河東田さん、右が加藤さん

11月5日 議会広報研究会(仙台市)

2月13日 議会広報クリニック(東京都)



多くを学んだ議会広報クリニック
(全国町村議会会館 東京都)



大張地区

古民家レストラン経営

百年先の 「おいしい」のために

新村 彰人さん 恵さん 湊さん

東京から移住し、味わい深い熟成肉や地元食材を楽しむ古民家レストランを開業した新村さん家族にお話を伺いました。

Q 丸森に移住した経緯は。

A (彰人さん) 北海道出身で、東京で飲食業の経験を積み、熟成肉との出会いをきっかけに独立を決めました。より生産現場に近い環境を探し、丸森町で理想に合う古民家と出会えたことで、家族で移住しました。

Q 開業してから現在まで、どのような歩んでこられたのですか。

A 大変だった古民家改装に始まり、目指したい姿と、求められることの間で試行錯誤を続けた3年間でした。

Q これから目指すところは。

A 耕作放棄地や竹林を活用して牛の

放牧や食材を自給する循環システムを構築したいと考えています。

Q 丸森町での子育てはどうですか。

A 多少の不便もありますが、良いところもたくさんあります。町内に悪天候でも遊べる屋内施設があれば嬉しいですね。

Q まちづくりに関しての考えは。

A 丸森町には魅力的な資源が多くあると感じています。しかし、それらを活かしきれっていない印象です。町全体として、次の世代のためにできることを考えながら、明確なビジョンを持って進んで欲しいと思います。

(八巻 眞由 委員)

ひとことインタビュー



新入生保護者

丸森地区 森 真澄さん

小学校では、明るく元気な、健康で過ごしてほしいです。



丸森小学校 1年2組 担任

佐藤 若菜先生

友達と仲良く遊び、進んで学ぶ子になってほしいです。

表紙のことば

4月9日、丸森小学校の入学式が行われ、男子18名、女子21名の計39名が入学しました。

桜の花も今日の入学式を待っていたかのように満開に咲き誇り、大きなランドセルを背負って登校した児童、保護者を歓迎していました。

式場では先生から名前を呼ばれると、元気な声で返事をする子、控えめに返事をする子、ワクワク、ドキドキの1年生。

表紙の2人は同じアパルトに住む大の仲良しです。みんなで仲良く、小学校生活を楽しんでください。

(大槻 孝雄 委員)

議会広報常任委員会

委員長	鈴木美智子
副委員長	山本 明徳
委員	八巻 眞由
	中津川かおり
	大槻 孝雄
	金森 裕之